



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER,2-18-12 NISHIWASEDA,SHINJUKU-KU,TOKYO 169-0051,JAPAN

国際会長主題 「価値観、エクステンション、リーダーシップ」
 アジア会長主題 「変化をもたらそう」
 東日本区理事主題 「変化を楽しもう！」
 あずさ部部長主題 「変わるに挑戦！」
 東京西クラブ会長主題 「変化を恐れず、少しずつ」

2020年7月号
 NO 526

見よ、わたしの選んだ僕。わたしの心に適った愛する者。この僕にわたしの霊を授ける。
 彼は異邦人に正義を知らせる。 マタイによる福音書12章18節

新しいスタート

副会長・大野貞次

新しい年度2020～2021が始まります。篠原文恵会長の2期目になります。前年度は、6月号で会長が語られたように、自然災害にはじまり、後半は新型コロナウイルス感染症の蔓延により活動が制限されてしまい、クラブとして大変な思いをいたしました。

新年度はコロナの感染を防ぎながらのスタートとなりますが、何とか無事に活動が順調に出来るように祈るばかりです。

強調月間として7月はキックオフ・YMCA サービス (YMCA に対する奉仕を立案、実行するワイズ活動) ASF・RBM 等を考えていくのですが、現状の環境ではなかなか実行が難しいところとなっています。

さて、7月例会を実施すべく準備に入りました矢先にコロナ感染者数が増え、例会は中止となり、この巻頭を書き直しとなりました。

クラブは、東日本区の中でも1、2を争う高齢クラブです。もし感染者が出ては大変ですので仕方がないとの思いです。この調子ですと8月の納涼例会も開催が出来なくなる恐れがありますね。それにしても7月に入りまた九州地区、特に熊本・鹿児島等の地区でまたもや自然災害とはいえ豪雨による甚大な被害が出てしまいました。悲しいことです。

昨年と同様な状況になってきました。本当に多難なスタートとなりました。これからのクラブ活動がスムーズに行われるか心配ですが、皆様と力を合わせクラブ活動を盛り立てていきたいと思っております。

右の写真は、7月2日YouTubeで公開された東日本区理事交代式の模様です。
 司式・藤井寛敏元国際会長、板村哲也東日本区理事、山田敏明前理事、小山久恵書記、司会・利根川恵子元区理事の皆さん



クラブ役員

会長 篠原文恵
 副会長 大野貞次
 書記 本川悦子
 会計 石井元子
 担当主事 横山弥利

6月の記録		ニコニコ	－円
在籍者数	12人	メネット	一人
(内功労会員)	1人	クラブファンド(当月)	－円
出席者数	一人	クラブファンド(残高)	165,358円
出席者数	一人	コメット	一人
出席者数	一人	ビジター	一人
出席者数	一人	ホテ校ファンド(当月)	0円
出席者数	一人	ホテ校ファンド(残高)	63,466円
出席者数	一人	WHO 参加者	一人

7月例会も中止

16日(木)に予定していた7月例会は、東京都の新型コロナ感染者が再び増加に転じたので、中止とさせていただきます。

今月の強調テーマ：
キックオフ、YMCA サービス、ASF、RBM

事務会報告に代えて

7月例会は、御園生好子・あずさ部長の公式訪問として、他に3人の同行者をお迎えすることになっていました。4月に転任された横山弥利主事の入会式、国際ホテル学校生への奨学金贈呈、クラブ役員交代式、延期されていた総会などのプログラムで、4か月ぶりの再会になるはずでしたが、感染予防を第一に考え、これらのプログラムは、次の機会に延期いたします。

例会、事務会の中止によって延び延びになっていた懸案事項は、メンバーにアンケート方式で意見を伺い、個人の近況も合わせてメールで報告をすることにいたします。(会長・篠原文恵)

あずさ部で初めてのZoom会議

6月25日19:00から30分間、初めてのあずさ部Zoom会議が開かれました。7クラブから14人の参加だったそうです。本来なら次期会長・次期部役員研修会で顔合わせをするのが通例ですが、新型コロナ対策のため、PC画面を通して挨拶と各クラブの活動状態が報告されました。

当クラブからは、本川悦子さんが、代行参加しました。

国際ホテル学校 奨学生の自己紹介

今回、クラブの「ホテル学校ファンD」の奨学生に決まったお二人の自己紹介です。

レ・タンハーさん(ベトナム)

私はベトナムのハノイから参りました、レ・タンハーと申します。家族は4人で、両親と弟がいます。

小学校の時からドラマ、漫画を通して、日本の文化が大好きになり、将来的に日本で働きたいと思いました。日本に留学すると決めた時に学校を調べたら、YMCAの評判が一番よく、就職率が高いと知りました。

2年前に来日、横浜YMCA学院専門学校日本語学科に1年在学して、東京YMCA国際ホテル学校に進学しました。先輩・先生方のサポートで学生生活が順調に進んでいます。入学してよかったと思っています!

ニン・テットトオさん

(ミャンマー)

ミャンマーから参りました、ニンテットトオでございます。

日本のサービスは他のアジアの国と違い、接客がとても丁寧です。利益にならないお客様に対しても、利益になるお客様と同じようなサービスで接客をしています。そのことにとても感動して、日本に来ました。

日本で本物のホスピタリティを学びたいと思い、YMCAを選んだ理由は、日本だけではなく世界的に活動しており、ボランティア活動に力を入れた社会貢献をしている団体に関心を持って、入学しました。

先生達は勉強だけではなく、色々なわからないことも優しく教えてくれてよかったです。周りの学生達が積極的に学んでおり、学ぶための雰囲気が出ていますので、勉強にも集中できる場所です。

YMCA Today

■国際ホテル専門学校は6月から授業が再開。クラスごとに週1回の登校でホームルームを行い、それ以外はオンラインでの授業を行っています。

少しずつ学生たちの登校も始まり、また、学校説明会も同時に再開し高校生の入学相談が増えるなど、徐々に活気が戻ってきています。

■6月29日から開催予定の「第23回会員芸術祭」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、東京YMCAホームページ上での実施に変更。絵画、写真、書画、陶芸、手芸他、写真撮影した出品者の作品を、7月下旬頃から「フォトギャラリー」として掲載する予定です。

■コロナの影響を受ける青少年支援緊急募金「YMCA子ども・ユース支援 ポジティブネット募金」を開始。全国YMCAが共に取り組み、3月末を期限に全国で3億円の目標額を掲げています。東京YMCAでは子どもたちの心身の健康を守る活動、困難を抱える子どもたちを支える活動、学生やユースボランティアの学習等を支える活動に用いていく予定です。

■6月6日のYMCAの誕生日に、世界中のYMCAが共通テーマによるチャレンジをし、YMCAの連帯感や多様性を体験する「ワールドチャレンジ」が、世界YMCA同盟の主催で毎年実施されています。

今年は世界のYMCAの多くが新型コロナウイルスの影響により困難な状況にあることを受け、「グローバルフォトチャレンジ」として、YMCAのTシャツを着た写真や関連する写真をSNSに投稿することで繋がっていく試みを行い、東京YMCAも参加しています。

(担当主事・横山弥利)

☆☆☆インタビュー☆☆☆83☆☆
小原 武夫さんに聴く
 東京世田谷クラブ



—小原さんのワイズ入会は。

「1984年5月でした」

—当時の東京世田谷クラブは古い方の存在感がありましたから、若い方がいきなり走り出した感じがありました。富田鉢次さんに聴いたら『ワカ殿だけバカ殿ではないよ』と言われ、そういう言い方もあるのか、と驚きました。

「Ha ha ha」

—富田さんは紹介での入会だったのですか。

「富田さんとは、入会してからのお付き合いでした。私は、他の奉仕クラブに属していて、その先輩会員だった杉山義夫さんが、東京世田谷クラブの会員でもあり、紹介され入会しました」

—杉山さんですか。私は若い頃、杉山さんによく励まされました。ワイズやYMCAはその時初めて知ったのですか。

「いいえ。娘の史奈子（現東京たんぼぼクラブ）が、中学1年生の時に東京YMCAのスキーキャンプに彼女の友人の勧めもあり参加し、以後、息子も山中（湖）キャンプなどに参加、家族でYMCAキャンプに参加したことから、午餐会の案内を頂くようになり、ある日の午餐会で杉山さんとお会いし、誘われました」

—史奈子さんの方が、先輩というわけですか。東京山手クラブの方が通いやすかったですでしょう。

「そうですね。家からも職場からも30分ほど近かったですね。やはりクラブは、人とのつながり

から、選ばれるのでしょうか」

—お仕事は。

「兄が、昭和36年に池袋のサンシャイン近くに始めたガソリンスタンドで、これからの時代にふさわしいかもと。両親は、戦前から神田神保町で食料品（乾物類）の商いをしていましたが、戦後は池袋、練馬と、新興地での商売をし、今日の基礎をつくり、兄と私が引き継いだ形です」

—小原さんは、東京生まれ、東京育ちでしょ。

「ええ、種付けは、神田かな？ 生まれは、練馬区江古田の病院です。兄と姉、戦後生まれの妹と、4人兄弟でした。その後、疎開先の秩父でヤギの乳で育ったとか」

—子どもの時は。
 「小学校のころ、マメタンクとよばれて、自転車の三角乗り（大人の自転車のサドルに乗れないので）をして池袋の路地をドライブ？ その頃の担任の先生の娘さんとの交流が続いています」

—カニ族だったという話を聴きましたが。
 「高校時代は、美術部で、油絵などを楽しんでいましたが、大学では、大きなザックを担いだカニ族で、北海道から復帰前の沖縄まで、旅行を楽しみました。沖縄は、姉の大学時代の友人が沖縄出身で、その交流のつながりでパスポートを取って、鹿児島から琉球海運の客船で訪問したのは、昭和38年の2月だったかな、以来どういうワケか奥さんも沖縄の…。これは長くなりますから」

—Ha ha ha。学校を卒業してすぐにお父さんの会社に入られたのですか。

「はい。丁度、3軒目のスタンドを川越に開所するときで、川越の所長として」

—ガソリンスタンド業界は、栄枯衰退があるようですね。

「ガソリンスタンドには、石油会社直営、個人経営、代理店などの経営形態がありますが、私のと

ころは、代理店として長く営業をして、現在は元売りの統合でマークが変わりました。創業、60年あまりになります。その間、営業所は、関越自動車道などに沿って川越、大宮、熊谷、高崎など20数か所に拡張できましたが、全国で7万軒近いスタンドの過当競争となり、20年余りかけて縮小し、現在は、4事業です。兄が5年前、79歳で死亡。以来、代表者として事業を継続、目下事業承継を行っているところです」

—小原さんは、日本区時代の最後の南東部長、東日本区第5代理事ですが、主宰した部会、区大会を沖縄で開催されました。

「学生時代に訪れた沖縄への思い入れもあり、沖縄那覇クラブ、沖縄しいーさあークラブとの交流も深まり、大会開催で本土の多くの方々に沖縄の現状を感じてもらえればとの思いから、沖縄2クラブのご支援で開催できたことは嬉しい限りでしたが、沖縄しいーさあークラブが解散に続き、沖縄那覇クラブも苦戦と残念です」

—小原さんは、複雑な物事を極めて簡単に単純化して、解決策を示すのが早いんですね。

「早く片づけて、楽をしたいからでしょうか…」

—ワイズの良さは、どんなところに感じられていますか。

「他の奉仕クラブとは40年以上の関わりとなります。事業主の方々との交流で、また、支社長などは、数年で交代など、人の出入りも結構あり、人的交流は限られてしまいますが、職業を通してのよい関係を大切にしています。ワイズでは肩書抜きでの交わりを大事にしていますから、その環境を守っていきたいです」

—最後に、座右の銘というか。

「流れに逆らわず、しいて言えば『事はいい加減に行う』その時々のお出たとこ勝負ですか…」

—有難うございました。

（吉田明弘）

私の大切な物⑦ 村野絢子

ニッセと北欧の品々

トロールとは北欧を造った妖精だと聞いている。もともとは大きな巨人だったという。北欧の妖精は国によってニッセ、トムテ、トントウとも呼ばれる。今、インターネットで見ると可愛いカラフルな小人たちが現れる。北欧の大地を造った妖精ならそんなはずはない。わが家のトロールは尖った大きな耳、赤くて長い鼻、ぼさぼさの髪、大きな口、どれも笑って寛いでいる小さな人形で、ダーラナの赤い木馬と並んで玄関にいる。

ある日、ヘルシンキの市中に巨大な岩が出てきた。市民は相談の結果、中を削って立派な「岩の教会」にした。トロールは今も生きている。岩の教会の近くの民芸店には木と毛糸・布製の素朴な手芸品が並び、アイディアの豊かさに感動した。

コスタボーダのボールに大きな幼児の描くような赤・青・黄の大きなチューリップの花の絵が書かれ楽しい。

透明のでこぼこした、ろうそく入れ「スノーボ

ール」は、どこにおいても似合う優れもの。友人 4 人の旅でステイ先のご両親が予約して下さって、コスタボーダの工場内の釜の前でディナーを頂いた思い出がある。

マリメッコのバッグを持つ人を街で普通に見られる。これも単純な花のデザインでヘルシンキに本店があった。私はコペンハーゲン空港で見つけた青い花のブラウスを買って愛用した。冬の長いノルウェーの編み物はとても暖かく、毛糸の刺繍のチョッキは大切な 1 枚である。北欧の品々はどれも落ち着いた大人の国を思い起こさせる。



私の自粛生活

本川悦子

3月から家籠りをしなければならぬ状況になり、有り余った時間を家にいて何をしようかと思ひ、まず毎年気になっていた庭のドクダミの刈り取りをしました。

ドクダミは小さいうちは白くて可愛い花が咲くのですが、伸びてくると膝丈くらいになり狭い庭が占領されてしまいます。ドクダミは地下茎が長くて、まるで地下鉄の路線のように右に左に分岐していて、本線は長いので 50cm くらいあります。今日は昨日より長いのを取ろうと毎日庭に出てせつせとドクダミの刈り取りをしました。

そして草を刈り取るばかりではなく、引き出し? から出てきた‘ひまわり’の種を蒔きました。たくさん蒔いた種のうち芽が 3 本出て、そのうちの 1 本に小さな花が咲きました。

家の中では JR 東日本の豪華列



車「四季島」(3泊4日、1人120万円~)の映像を YouTube で見て豪華旅行を楽しんでいる気分を味わっていました。

YouTube では、山登りが好きだった若いころに、登りたくても技術不足のため登れなかった剣岳、黒部峡谷の十字峡の画像を若いころを思い出しながら楽しみました。

編集後記

何とか発刊にこぎつけられました。と言っても遅れに遅れてしまいました。

この新型コロナウイルスの影響であらゆる行事が制約され実行できなくなり思うような記事が書けない中、寄稿していただいた方には感謝カンシャです。担当者としては失格ですが。

残念なことに新年度のスタートがこのような形で例会が中止になり、皆様と会う機会がなくなりました。そこで皆様にこの数か月の自粛生活の状況を寄稿していただければと思っております。

それにしてもあらゆるところで豪雨による被害が出てしまい毎日悲しい出来事が報じられています。心が痛みます。それに輪をかけて新型コロナウイルスに感染した方が増えている現状を見聞きする毎日です。

皆様気をつけて生活しましょう。ガンバ・ガンバ。(T・O)